岡山畜産便り 1964.01

県総合畜連だより

—和牛子牛の商品的価値を高めるには—

時代に要求されるお客の好みにあう牛をつくること

和牛の経済性を高めるには まず子牛を高く売ることから

“和牛生産は儲からない”という考え方が、２年続きの牛価安と、低迷している農業全般よりうける農家の悲観的見通し等に伴う意欲の低下により、近年和牛飼養頭数の漸減が目立ってきており、和牛経営はますます沈滞深刻化の傾向があると思います。

この現状は、今後において改善解決の方途があるかということであります。これまで和牛の歩んできた旧来の和牛経営の姿のままで将来を推察すれば、何人も悲観的観測になるだろうが、しかし和牛も現代の畜産として時代に要求される方向に変革すれば、いかなる経済性が出てくるかである。

最近よく聞くことに「他産業に比して農業程採算の合わないものはない、和牛生産は時代的農業として引き合わない、飼料の意味がない」とした考えを持つ人すらある。ここまでくると農業全般の問題になる。これはさておき、中国農試農業経営部では将来の和牛経営、特に和牛生産については次の様な分化の方向が強まるとした予測をたてている。

Ⅰ　転換型　和牛生産が消滅して他のものにおきかわる経営ないし地域

Ⅱ　時代型　和牛生産が、新しい時代に即応した商品的生産として脱皮していく経営ないし地域

Ⅲ　旧来型　農業構造の近代化がおくれ今までの様な経営形態のままの姿で和牛生産が残される経営ないし地域

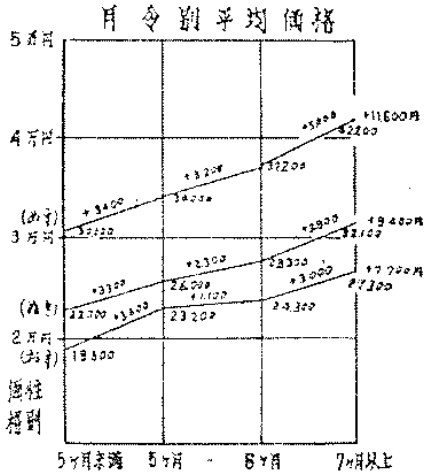
以上のいずれかの型に和牛経営が移行することが予測され、今後の和牛界としては、十分心すべき事項と考えるわけです。国、県においても、新しい経済の動きに即した和牛施策が講ぜられつつあるが、ここでも、和牛が経営的にも社会的にも困難な諸条件の多いながらも、本会業務を通じて、少しでも前向きの和牛の有り方につき申し述べてみることにします。

われわれとしては、今後の和牛は今までの“無意識”の飼育管理から商業的畜産らしく伸びるために、Ⅱ型の時代の要求に対応した、用畜化（肉畜）の方向に早急に改善し、和牛としての有利性を強調した草資源の活用、省力管理の徹底を図るべきであると考えます。

次に手近な和牛子牛の有利な販売と時代的要求の方向につき参考事項を示してみます。

（１）　牛の月令よりみた有利な販売

セリ市場上場の月令月の平均価格の比較をみると、牝牡、ヌキ共に７カ月に向って上昇線を辿っておる。特に６カ月から７カ月の間の価格上昇は、１カ月間に 3,000～5,000 円である。有利な販売月令は、生後 200 日以上（７カ月）哺乳期を置くこと。



（２）　性別による月令割合

牡犢、牝、ヌキよりも高く売れると言う昔ながらの考えから、牡犢の哺乳日数は一般に長くつけている傾向があるが、牡、ヌキはややもすると月浅い発育不良のものがセリ市場に出されている傾向がある。

今後和牛は、肉用牛として早肥早熟を要求され、従って哺乳日数 200 日以上の発育のよい犢が市場価格が高い。

（３）　性別による日割当り価格の比較

性＼項目	平均哺乳日数	平均価格	日割当価格
ヌキ	206日	34,294円	166円
牝	210日	31,991円	152円
牡	193日	27,886円	144円

（注）昭和38年３月勝田郡勝加茂家畜市場実績

これまで犢の平均価格は、牝と牡（ヌキ）との格

差が大きかったが、和牛も時代の要求に従って肉用牛としての経済的裏付から却って牡（ヌキ）の価格が上昇し、牝犢に接近した。なお最近は良質去勢牛は牝の平均価格を上回る成績があらわれた。

日割当りからみれば、牝犢に劣らぬので、牡犢の商品価値を高めることが急務だ。

以上和牛子牛についても、時代の要求に即した肉畜利用の裏付として、発育、増体がよく、体積のよいものが有利になり、特に牡犢については、若令肥育の素牛に向くような子牛規格が高いこと、また去勢牛が歓迎されることは当然であり、改善すべき点と考えます。

本会において、昨年より展開している和牛子牛規格向上運動につき深いご理解をいただきたいと思います。

この“和牛規格向上運動”も農家の方々の和牛経営に有利であり、また、規格向上のための哺乳日数の延長、これに伴う母牛子牛に対しての飼料費、母牛の時期種付けとの関連等につき検討したうえでの有利性につき、深いご理解と、農家自身の自信がつくことにより、この運動の効果が現われるものと思います。

次回は子牛の飼養管理と和牛子牛規格向上運動の有利性につき申し述べてみたいと思います。

（つづく）

最近の乳牛枝肉販売成績

■乳牛の枝肉単価も和牛並に販売出来る

■生体重当りの単価はKg当り156円

最近食肉の伸びに従って酪農経営にも“肉”の利用を加えた経営が考えられるようになった。とくに一般家畜市場、食肉市場へ肉畜として出荷増の傾向で、これらの乳牛には、妊娠牛がかなりいることからしても、最近は乳牛の販売価格が肉利用にも相当のウエートを占めてきたと思う。これからは乳牛の駄牛、淘汰牛、廃用牛についても、チョットの飼育管理に注意していただき、乳牛の経済性を高めることが必要であると思います。

最近の食肉市場に出荷された乳牛の枝肉成績を参考までに申し述べてみると次の表の通りです。

■この出荷成績から推測するに、肥育度が軽く、もうすこし肥育技術の向上が必要。

■乳牛でも質と肥育度がよければ和牛肉になんら変らず、並物は出来るので、折角の体積と粗飼料の利用性を活した、肉の生産を高めることが酪農経営上大切である。

乳牛枝肉販売成績　38.12

年令	生体重	枝肉量	歩留	単価（Kg当り）	金額	生体重当り単価 1Kg当り	生体重当り単価 100匁当り
	Kg	Kg	%	円	円	円	円
8	560	253	45.0	190	48,070	85.5	32.0
2	410	220	53.6	370	81,400	198.3	74.3
3	450	258	57.4	320	82,560	183.6	68.8
5	361	192	53.6	351	67,392	188.1	70.5
平均 4.5	445.3	230.8	52.4	367.8	69,856	163.9	64.4

◎ 枝肉共進会成績表 ◎

今年11月下旬から開催した県・郡市段階の枝肉共進会を岡山県営食肉市場で5回実施して来た共進会成績を参考までにお知らせします。

枝肉共進会成績表　（平均）

肉牛共進会名	体高	胸囲	管囲	生体重	枝肉量	歩留	単価 最高	単価 最低	単価 平均
	cm	cm	cm	Kg	Kg	%	円	円	円
第3回総社枝肉共進会	129.5	196.1	18.3	500.9	294.0	58.6	485	430	448
第7回倉敷枝肉共進会	129.9	196.3	18.4	520.0	286.6	55.1	470	390	423
第2回岡山県肉畜共進会	132.2	207.1	17.9	571.5	356.0	63.7	720	420	471
第3回瀬戸枝肉共進会	128.2	199.5	19.1	25.7	309.6	58.4	502	415	438
第2回岡山枝肉共進会	127.4	195.0	8.8	498.5	294.5	59.1	500	420	443

岡山名産牛肉を　両陛下に献上

本県和牛も肉牛として全国に人気を博しており、組合畜連としては、新しく東京・大阪方面に販路拡張を行って、このほど県の図らいにより第2回岡山県肉畜共進会の最優秀首席の牛肉を本会で買上げ岡山名産とし真心こめて、両陛下をはじめ各宮殿下その他閣僚に名誉に余る献上を行った。このことは、岡山県肉牛の前進であり、大きい意義をもつものと思う。